

平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 上河内東 小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	21人	算数	21人	理科	21人
第5学年	国語	22人	算数	22人	理科	24人

5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

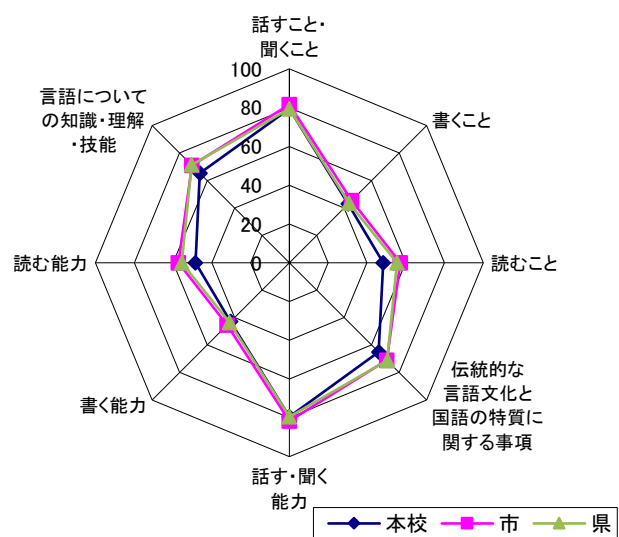
(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内東小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	79.4	81.6	79.4
	書くこと	42.9	45.4	43.6
	読むこと	48.4	57.2	55.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	65.2	71.1	71.4
観点	話す・聞く能力	79.4	81.6	79.4
	書く能力	42.9	45.4	43.6
	読む能力	48.4	57.2	55.5
	言語についての知識・理解・技能	65.2	71.1	71.4



★指導の工夫と改善

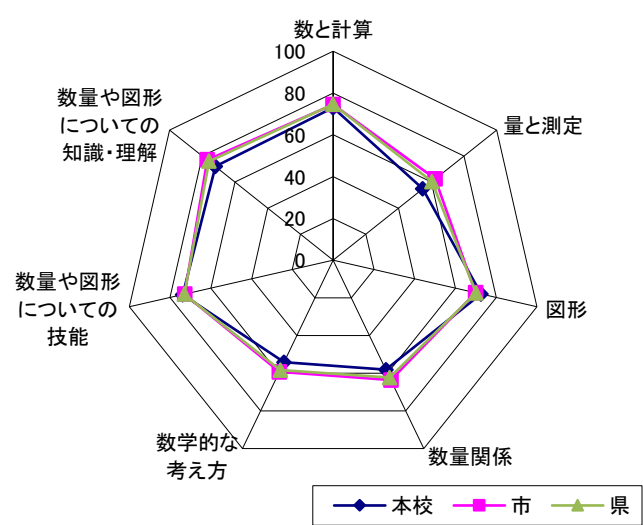
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は県と同じで、市より低い。 ○理由を挙げながら筋道を立てて話すことについては、県の正答率を上回っている。 ●話し合いにおいて司会者の役割を理解し、進行することについて県の正答率を下回っている。	・国語の授業や学級活動の話し合いで自分の意見に理由をつけて発表するように習慣づけてきた成果が出てきている。 ・話し合いの機会を意図的に設定し、誰もが司会を経験したり、司会進行のマニュアルを活用したりすることで司会者の役割を理解できるようにさせたい。
書くこと	平均正答率は、市や県より低い。 ○文章構成を意識して報告レポートを書くことについては、県の正答率を上回っている。 ●メモを基に報告レポートに適切な内容を書き入れることにおいては、県の正答率を下回っている。	・書く目的に応じ、必要な内容や資料を児童が自ら選びまとめることができるようにさせたい。また、自分の考えや感想を文章で表現する機会を増やし、継続して文章を書く習慣を身につけさせ書く力を高めていきたい。
読むこと	平均正答率は、市や県より低い。 ●中心となる語や文を捉えて読んだり、叙述を基に登場人物の気持ちを想像して読んだりすることに課題が見られた。	・読書量を増やしたり、各教科や家庭学習で音読をする機会を多くし、文章に親しんだり、読んだりする活動を多く取り入れるようにして、読解力を高めていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は市や県より低い。 ○国語辞典の使い方の理解については、県の正答率を上回っている。 ●指示語の役割について県の正答率を下回っている。	・単元ごとに辞書を使って語句の意味調べを行ってきた成果が出ていた。 ・授業の中で指示語について再確認したり、作文の中で指示語を使用させるようにしたりしながら理解を深めさせたい。

宇都宮市立上河内東小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	73.0	74.5	74.6
	量と測定	54.8	62.4	60.4
	図形	72.6	69.9	70.1
	数量関係	58.1	63.6	62.3
観点	数学的な考え方	54.2	59.2	58.3
	数量や図形□についての技能	73.8	72.9	73.0
	数量や図形□についての知識・理解	72.1	77.1	76.0



★指導の工夫と改善

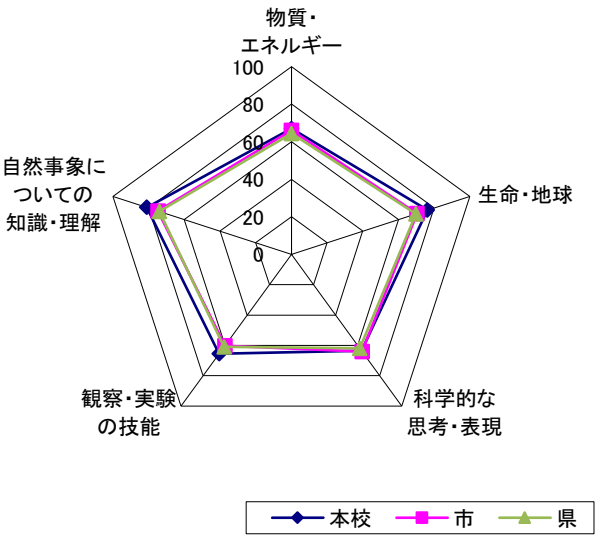
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市や県より低い。 ○かけ算の仕組みを正しく表す数を書き入れることについては、県の正答率を上回っている。 ●基準量よりも比較量の方が大きい場面で何倍かを求めることについては、県の正答率を下回っている。	・筆算の位をそろえて計算したり、繰り上がりや繰り下がりの数字を書かせ、正確に計算させたりすることを徹底するとともに、見積もりや見直しなども習慣づけるようにしたい。 ・数直線やテープ図を使い、何倍か求める方法を確認させ、定着を図りたい。
量と測定	平均正答率は、市や県より低い。 ○はかりに示された重さを読み取ることについては、県の正答率を上回っている。 ●ドッジボール1個のおよその重さを選ぶことについては、県の平均を下回っている。	・はかりに示された重さを読み取る際には、重さの見当をつけさせてから実際の重さをはかるようにさせるなど、重さを常に比べるようにさせたい。
図形	平均正答率は、市や県より高い。 ○与えられた1辺の続きをかくて正三角形を完成させることについては、県平均を上回っている。	・図形についての発展的な問題についても授業や家庭学習で取り上げ、課題の解き方にさらに慣れるようにしていきたい。
数量関係	平均正答率は、市や県より低い。 ○未知の数量を□として、数量関係を表した線分図を選ぶことについては、県平均を上回っている。 ●□を用いた乗法の式に適した場面を選ぶことや棒グラフの目盛りの大きさを読み取ることについて、県の正答率を下回っている。	・文章問題では、線分図から立式できるように繰り返し指導していきたい。 ・棒グラフについては、はじめに1目盛りを表す量を読み取れるよう習慣付けたい。

宇都宮市立上河内東小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	67.0	66.1	64.4
	生命・地球	76.2	70.4	69.8
観点	科学的な思考・表現	63.6	64.1	61.9
	観察・実験の技能	65.5	60.2	61.0
	自然事象についての知識・理解	81.0	74.8	74.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	正答率は県・市と比べてほぼ同じである。 ○電気の流れる通り道「回路」や方位を調べる器具「方位磁針」などの名称を答える設問の正答率は90%近くで高い。 ●日光を重ねたときの明るさと温度の変化を考察する設問の正答率は52.4%で、市の平均より30.5%高いが、日光の明るさと温度上昇の関係の理解に課題がみられる。 ●天秤がつりあうことから、材質が異なる2つのものの重さを推測する設問の正答率は、52.4%で市の平均より19.5%低く、体積と重さのちがいの理解に課題がみられる。	・理科の用語を使用して観察・実験の結果や考察を記述させることで、基礎・基本の定着と表現力を高める指導を引き続き行う。 ・体積と重さについては、4年生で学ぶ「もののあたため方」や「ものの温度と体積」の単元で、実感を伴った理解になるよう、実験を行う際に繰り返し確認する。
生命・地球	平均正答率は県・市と比べて高い。 ○昆虫の成虫が卵を産む場所とその場所を選んだ理由を説明する設問では、記述式であるにも関わらず、正答率が95.3%と高い。 ●太陽の動きから、影の動く方角を推測する設問では、正答率が38.1%と低く、課題がみられる。	・身の回りの自然の生き物について興味・関心が高く、観察においても視点を明確にもち、自らの感覚を通して捉えようとしている。これらの体験を互いに伝達したり、疑問を話し合うことで深い理解を促す指導を継続する。 ・太陽の動きと影の動きを関係づけて三次元的に捉えることについては、四季の「星や月の動き」の単元で観察を行うとともに、視聴覚教材などを有効に活用して理解できるようにする。

宇都宮市立上河内東小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

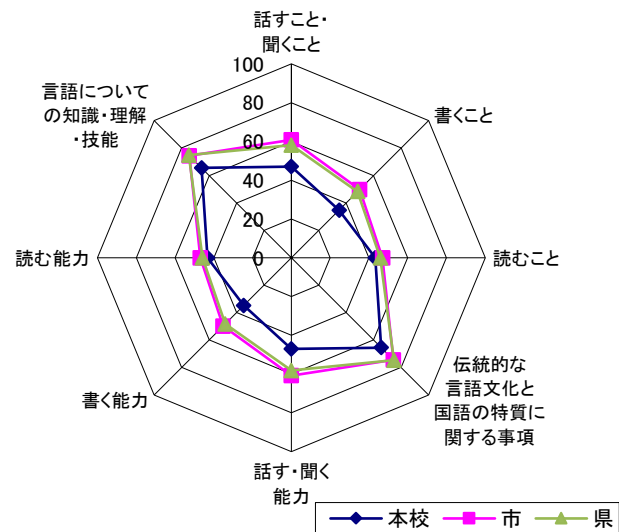
○「毎朝朝食を食べている」「早寝・早起きを心がけている」という問いに対しての肯定割合が高い。年間を通して、家庭と連携し、定期的に生活習慣を見直す活動を行っている成果が表れている。

●「家で学校の宿題をしている」の肯定割合は高いが、「学校の宿題はやりたくなる内容だ」の肯定割合が低い。学習に対して興味関心を引き出すために、宿題の内容を工夫していく必要がある。また、「学校の授業の予習・復習をやっている」「家でテストの間違いの見直しをやっている」の肯定割合が低い。毎日家庭で授業の予習・復習ができるように家庭学習の方法について提示するとともに、家庭学習のあり方について見直していきたい。

宇都宮市立上河内東小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	47.0	60.8	58.1
	書くこと	34.8	49.8	48.3
	読むこと	43.2	47.0	45.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	65.5	74.4	74.8
観点	話す・聞く能力	47.0	60.8	58.1
	書く能力	34.8	49.8	48.3
	読む能力	43.2	47.0	45.9
	言語についての知識・理解・技能	65.5	74.4	74.8



★指導の工夫と改善

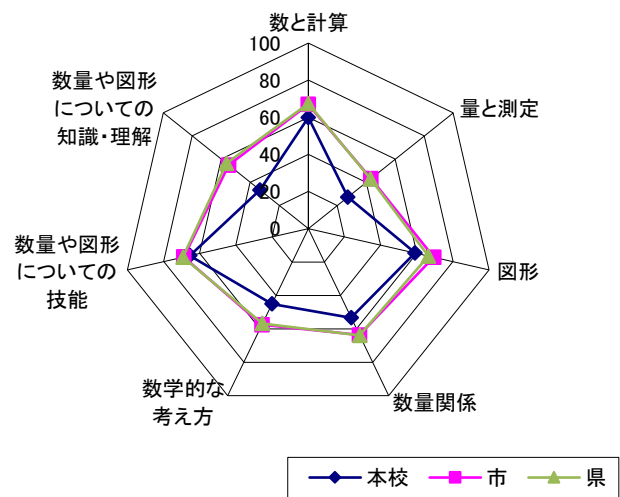
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ●話し合いの中で意見の共通点を考えて書く問題の正答率は31.8%で市の平均より16.5ポイント低い。特に、無解答率が18.2%と、市の平均より12.3ポイント多い。	・いくつかの文を比較しながら読み、共通点や相違点を挙げていく活動をすることで、言葉や叙述に注目すれば分かるという経験を積むことができるよう指導していく。
書くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ●インタビューの結果を基に、必要な内容を整理して書く問題の正答率は27.3%で市の平均より13.4ポイント低い。	・聞かれていることに答えるには、語尾をどのような表現にすればよいかを考えることを大切にすることで、文章が正しく繋がるように、文中の空欄に適切な言葉を入れる力を育てていく。
読むこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ○叙述を基に、登場人物の気持ちを想像して選択肢から選ぶ問題の正答率は90.9%で市の平均より2.4ポイント高い。 ●登場人物についての描写から、心情を想像して記述する問題の正答率は、45.5%で市の平均より6ポイント低い。	・登場人物の気持ちを想像する活動では、叙述を根拠にして自分の考えを説明する活動を取り入れていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ○「約束」の読み方を書く問題の正答率は100%であった。 ●「柱」の漢字を書く問題の正答率は36.4%で市の平均より32.8ポイント低い。 ●漢字辞典の使い方を問う問題の正答率は31.8%で市の平均より35.5ポイント低い。	・既習の漢字でもひらがなで書いたり、乱雑な字で書いていたりする児童が多い。日頃から使うことが定着には必要なことであるので、基本的な学習習慣の定着を図っていく。

宇都宮市立上河内東小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	59.9	66.9	67.4
	量と測定	27.3	43.2	43.0
	図形	59.1	69.4	66.5
	数量関係	53.4	63.7	63.9
観点	数学的な考え方	45.1	57.5	56.8
	数量や図形についての技能	65.5	68.8	69.3
	数量や図形についての知識・理解	33.3	54.9	56.4



★指導の工夫と改善

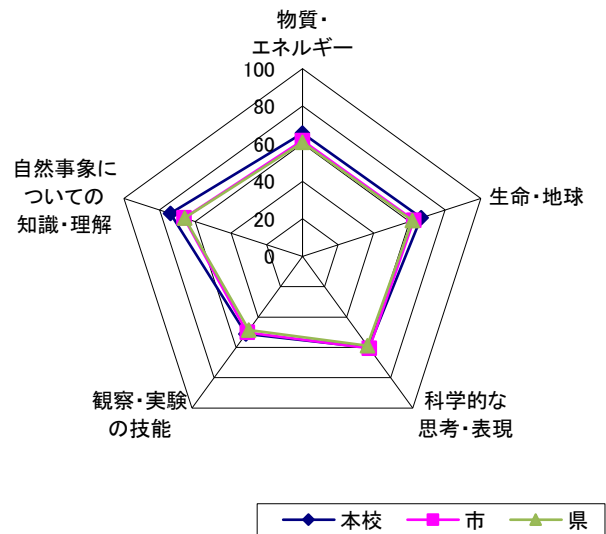
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均より低い。 ○かけ算の計算をする問題の正答率は86.4%で市の平均より13.6ポイント高い。 ●わり算の計算をする問題の正答率は45.5%で市の平均より18.8ポイント低い。 ●数直線上の矢印の値を表す数を分数で答える問題の正答率は18.2%で市の平均より41.2ポイント低い。	・わり算の基本的な計算の習熟を図るために、学年をさかのぼって確認し、計算練習を積極的に取り入れていく。 ・数直線の基本的な概念を確認するとともに、授業の中で繰り返し使うことで習熟を図る。
量と測定	平均正答率は、市の平均より低い。 ○基準量よりも比較量の方が小さい場面で何倍かを求める問題の正答率は50%で市の平均より2.1ポイント高い。 ●買い物の場面で、1つの式に表した考え方を完成させる問題の正答率は22.7%で市の平均より29.7ポイント低い。 ●はがきのおよその面積を選ぶ問題の正答率は13.6%で市の平均より21.3ポイント低い。	・その式が何を表しているのか、その式から分かることは何なのかをその都度考えさせることで、式の意味を考える習慣を身に付けられるよう指導する。 ・面積や体積を指導する際に、1cmや1cm ² 、1cm ³ などの大きさを具体的に捉えらえるよう指導を工夫する。また、折に触れてどのくらいの大きさを話題にすることで、長さや大きさの感覚の定着を図る。
図形	平均正答率は、市の平均より低い。 ●図を基に180度より大きい角度の求め方を説明する問題の正答率は40.9%で市の平均より13.4ポイント低い。 ●与えられた2辺の続きをかくて、平行四辺形を完成させる問題の正答率は45.5%で市の平均より14.1ポイント低い。	・考えや解法を言葉で説明する活動を多く取り入れることで、順序立てて端的に説明する力を育てるようにする。
数量関係	平均正答率は、市の平均より低い。 ○表の空欄に当てはまる数を求める問題の正答率は86.4%で市の平均より7ポイント高い。 ●グラフからアイスクリームを買った合計金額が一番少ない月を選ぶ問題の正答率は68.2%で市の平均より11.8ポイント低い。	・算数科の指導だけでなく、社会科や国語科の授業の中でもグラフの読み取り方をその都度復習することで定着を図る。

宇都宮市立上河内東小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	65.6	61.7	60.7
	生命・地球	66.5	62.4	61.6
観点	科学的な思考・表現	60.1	60.6	58.9
	観察・実験の技能	51.1	50.1	48.6
	自然事象についての知識・理解	74.0	66.3	66.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、市の平均より高い。 ○水の中から出てくる泡が「水蒸気」という気体の水であることを選択肢から選ぶ問題の正答率は66.7%で市の平均より20.7ポイント高い。 ●ポットを押したときに湯が出る理由を説明した文の空欄に言葉を選択肢から選んで答える問題の正答率は16.7%で市の平均より27.6ポイント低い。	・順序立てて説明する力を育てていくために、理科の授業だけでなく、算数科や国語科、社会科などの授業の中でも説明する活動を積極的に取り入れていく。その時に、順序立てて説明するための工夫を指導していく。
生命・地球	平均正答率は、市の平均より高い。 ○方位磁針の適切な操作方法を選び、図示された方位を答える問題の正答率は41.7%で市の平均より4.5ポイント高い。 ●星座の動きを捉えるために適切な記録方法を選択肢から選ぶ問題の正答率は41.7%で市の平均より14.7ポイント低い。	・実験結果を確実に記録する力を伸ばすために、実験をする際には、何を調べるための実験で、どのようなことを記録する必要があるのかを児童に考えさせ、全体で確認するようにする。

宇都宮市立上河内東小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家で勉強するときに、大体同じ時刻に取り組むようにしているかを問う質問の肯定回答割合は75%で市の平均より11.1ポイント高い。

○難しい問題に出会ったとき、よりやる気が出るかを問う質問の肯定回答割合は66.7%で市の平均より7.5ポイント高い。

●家で、学校の授業の復習をしているかを問う質問の肯定回答割合は50%で市の平均より15ポイント低い。また、家で、テストで間違えた問題について勉強しているかを問う質問の肯定回答割合は58.3%で市の平均より9.4ポイント低い。

児童が家庭学習において、自分にどんな勉強が必要かを考えて取り組む姿勢を育てていくために、具体的に学習方法を紹介するなどの工夫をする。

●グループなどでの話し合いに自分から進んで参加しているかを問う質問の肯定回答割合は70.8%で市の平均より6ポイント低い。全体に向かって発表することに慣れさせるために、型を決めて話す活動を取り入れたり、意図的に指名して話す経験を積ませたりするなどの工夫をしていく。

宇都宮市立上河内東小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業におけるまとめ・振り返りの充実	授業の最後に、本時のまとめを行って全員で確認し、一人一人がめあてに合った振り返りを自分の言葉でノートに書く時間を設けている。	「授業の最後に学習したことを振り返る活動をよく行っている」の質問に肯定的に回答した児童の割合が、4年生90.5%、5年生83.3%となり、昨年度の平均と比較して4・5年生ともに向上した。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
算数の調査結果から、量と測定、数量関係についての基本的な理解と、技能に関わる問題の正答率が4・5年生ともに県平均を下回っていた。	繰り返しの練習と復習により定着を図る学習の充実	朝の学習の時間を漢字と計算の練習と位置付け、ステップアップシート等を活用して復習させ、定着を図るとともに家庭学習の習慣化を図る。